創立1880年
YMCA 東京YMCA
2015 10 月号
発行所　公益財団法人東京ＹＭＣＡ　発行人　廣田光司
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562
URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命

東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

65チームが力強くスタート！

障がいのある子どもたちを支援するため、東京ＹＭＣＡは今年も「ＹＭＣＡインターナショナル・チャリティーラン」を９月23日、都立木場公園で開催。65チーム４２０人（伴走含む）が透んだ秋空の下を走りました。

この大会は１チーム６人の駅伝で、１人が１・３ｋｍずつ走ります。参加費は１チーム10万円。それぞれ募金や社費などを活かし、毎年多数ご参加いただいています。

大会では、障がいのある方々も一緒に走ります。支援する人も支援を受ける人も一緒に楽しむことが特徴の一つとなっています。

また、競技前の「こどもラン」は年々出場者が増え、約６５０人の親子が参加。パレードさながらの大行列をなし、大人と同じ１・３ｋｍに挑戦しました。

会場では、コース誘導や模擬店、設営のため３００人のボランティア・スタッフが活躍。応援者を含め来場者総数は１８００人を越えて、大いに賑わいました。

賞品や抽選会の景品、ランナーへの飲食物など、物品による支援も多数いただきました。おかげさまで益金は６６０万円となりました。感謝して報告します。

（＝2面へ）

第29回 東京ＹＭＣＡインターナショナル・チャリティーラン
障がい者支援に 1800人集う

参加チーム インタビュー

参加29回目 衣装は社員の手作り
株式会社カーギル ジャパン
ケアーズ カウンシル　髙野 直之 さん

羊の衣装（↑）と、衣装を作る社員の皆さん→

この大会には第1回から29年間毎年参加しています。当時の社長がアメリカ人で、その交友関係から声がかかったのがきっかけだったようです。

カーギルには「ケアーズカウンシル」という従業員主体のボランティア活動をリードする組織があり、チャリティーランは重要な活動の1つとして位置付けられています。以前は1～2チームの参加でしたが、ここ数年は4チーム参加しています。

出場する4チームの内1チームは衣装に力を入れています。去年はミツバチ、今年は羊の衣装でしたが、すべて社員の手作りです。毎年9月になると皆でデザインを考えて、ランナーだけでなく社員有志が一緒に昼休みや就労後に製作します。社内募金をして材料費を集め、皆が心を一つにして頑張ります。大変ですが「やらされている」という感じはないです。皆で楽しんで盛り上がってやっています。

また今年は1チーム、足の速い社員を集めて会社としての記録更新をねらったところ、初めて8位に入賞！　会社中で喜び合いました。

カーギルは、新入社員よりも途中入社が多い会社なので、この大会は社員の交流の場にもなっています。大会の後には皆でもんじゃに行って打ち上げしたり、普段は接点のない他部門の社員とも一緒に楽しく参加しています。

キャンプ同窓生がチーム結成
東京・フロストバレーＹＭＣＡパートナーシップ
高橋　陽介さん

「ニューヨークでは、一緒にキャンプをした仲間たちが年代を越えて集まり、チャリティーランに参加している」。春にそんな話を聞いたことから、「ぜひ日本でもやろう！」と、今回初めて参加しました。

「東京・フロストバレーＹＭＣＡパートナーシップ」のキャンプは、ニューヨーク州のフロストバレーＹＭＣＡで行われている日系人を対象としたキャンプです。今回は、80年代以降このキャンプに参加したキャンパー、リーダー、スタッフおよびその家族に声をかけたところ、「こどもラン」を含めてランナー13人（内小学生5人）、スポンサーになってくれた同窓生や関係者など計28人が集まりました。

大切な仲間と楽しく参加できたこと、そしてそれが他者の役にたつということは、とても好評でした。参加者の感想をご紹介します。

●キャンプ場でのジョギング仲間と、久々に一緒に走れるのは最高！
●楽しみながら、障がいのある子どもたちの支援ができる素晴らしいプログラムだった。
●この日に向けて家族でトレーニングを重ね、子どもと一緒に参加できたのは嬉しかった。運動が苦手な息子も「こどもラン」と駅伝の両方を完走でき、自信につながりました。
●参加費を集めるのに苦労したが、友人や関係者のサポートのおかげで達成できて良かった。

来年は30回記念。また走れるように日々健康に過ごしていきたいです。

楽しく参加できる社会貢献活動として
花王ハートポケット倶楽部
花王株式会社 社会貢献室　菊池 さわ子さん

花王のブランドカラーのライトグリーンとした名の「花」を意識したコスチューム

花王ハートポケット倶楽部は、２００４年に開始した花王グループ社員による社会的支援を目的としたクラブ組織です。趣旨に賛同する社員が会員となり、毎月の給与から1口50円として、1口から１００口の範囲で任意の金額を積み立て、ＮＰＯ・ＮＧＯ・市民団体への寄付、広域災害発生時の緊急支援などに役立てています。寄付先や基金の使途の決定は、会員の代表である運営委員から構成される運営委員会の審議によって決定しています。

また、資金面での活動支援に加え、社会に役立つ活動にもう少し気軽に参加する機会を提供できればと、ＹＭＣＡのチャリティーランを社員に紹介しています。参加社員の多くは走ることが好きで、参加経験のある社員からの紹介を通じ、職場の同僚とチームを組んで参加しています。

今回参加した社員も、「チャリティーに関心がありながらも、どのようなものに参加すべきかタイミングがつかめずにいた。よきモノづくりを通じた社会への貢献を行うと同時に自分達が大好きな走ることでも社会に役に立つことができれば嬉しいと感じ参加させていただいた。コスチュームは、今回のメンバーは全員女性だったため、花王のブランドカラーのライトグリーンと社名の「花」を意識したかわいらしいコスチュームで、楽しく走ることができた。」と参加後の感想を寄せてくれました。

障がいのある人もない人も、共に助け合い、活躍できる社会であり続けることを願って、今後もチャリティーランに参加していきたいと思います。

赤▽三角

東京ＹＭＣＡにほんご学院には、現在約１００名の留学生が在籍しています。将来は日本で就職したいと考えている学生がほとんどです。留学費用の一部をアルバイト代でまかなうため、物流業界やコンビニエンスストアのお弁当を詰める工場などで働きながら勉強しています▼日本人の18歳人口減少によって積極的に留学生募集を行っている大学・専門学校もあります。現在21万人いる留学生を30万人にしようという国の計画もあります。日本の技術移転を目的に入国する外国人も多くみられ、また技術研修生も約20万人います。▼留学生や研修生の数は日本の人口の約3％程ですが、多くが20代ということを考えると、若い世代の15～6人に1人は外国人ということになります▼この留学生をどう育てるのか？　よく「若者を育てる」という言葉は耳にしますが、果たしてその対象となる〝若者〟たちを、育てる側がしっかりと見据えているでしょうか？　日本人が就きたがらない仕事の担い手、またはいずれ母国に帰るお客様としてではなく、日本社会に受け入れていく「覚悟」が求められていることを、私たちは認識しなければならないと思います。（にほんご学院校長　小野実）

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

「持続可能な未来」を語る

アジア・太平洋ＹＭＣＡ大会、23カ国364人参加、

→北朝鮮との境界にある「自由の橋」で。世界ＹＭＣＡ同盟ヨハン氏、香港・台湾のユースと共に撮影。左から２番目が永岡さん）

東京ＹＭＣＡ医療福祉専門学校　**永岡　美咲**

「基盤を強化し、持続可能な未来をつくろう！」をテーマに、第19回アジア・太平洋ＹＭＣＡ大会が9月7日～11日、韓国の大田（テジョン）市で開催され、23の国と地域から364人が参加しました。内35歳以下の参加者が112人、日本からの全参加者は31人。東京ＹＭＣＡからは伊藤剛士（会員事務局）と永岡美咲が「ユース代表」として参加しました。

「ユース代表」は、アジア・太平洋ＹＭＣＡ同盟が2012年から始めた研修プログラムで、東京ＹＭＣＡからは、2012～15年まで永岡が、15～17年は伊藤がこれに参加しています。

9月6日～7日には、同じく大田市で35歳以下を対象とした「第3回ユース・アッセンブリー」が行なわれました。この会の運営は各国の「ユース代表」が中心となり、アジアのユースを取り巻く問題などを話し合いました。多くの国から出された課題は、若者の就職が困難な状況であることでした。また韓国エネルギー技術研究院の「太陽光発電の家」も訪問し、持続可能なエネルギー資源や原子力発電の賛否について話し合いました。バングラデシュの参加者は、「自分の国は電気不足で、毎日1～2時間の停電がある。まずは安全で安定した電気供給が必要」と発言しました。同じ部屋で話をしていると、普段の生活も「私たちと同じではないか」と勘違いしてしまいますが、改めてアジアの国々の現実に触れることができました。

大会では、世界ＹＭＣＡ同盟ヨハン・エルトヴィック総主事がユースだけを集めて語る時間がありました。「ＹＭＣＡをよい方向に変えるには、ユースの地位を高め、運営にユースを取り込んでいく“ユース・エンパワーメント”こそが必要である」という信念を持つヨハン氏。「けれどもＹＭＣＡのユース・エンパワーメントには答えがない。まるで飛行機を作りながら飛んでいるようなものである」と表現され、各自がそれぞれの場で考え、試行錯誤しながら実現してほしいとエールがおくられました。

ＹＭＣＡは常にその時代のユースを巻き込み、社会のニーズに合わせて変化しています。ユース・エンパワーメントを推し進めていく意気込みと決意に共感し、私もユース代表としてその一員となれたことを光栄に思いました。

子育てコラム

今の時を喜びをもって生きる

「今の時を喜びをもって生きる」。この言葉を大きな柱として、東陽町ＹＭＣＡ保育園は13年間歩み続けて参りました。

東京都が待機児童解消策として打ち出した認証保育園制度に、いち早くＹＭＣＡが名乗りをあげ、今日まで保護者の方々の暖かな支持とご協力の下、こうして続けてこられたことに感謝しております。

０歳から2歳までの大切な時期の子どもたちをお預かりしている私たち保育者の使命は、計り知れないほど大きいということを、日々実感しながら保育にあたっています。

初めて母親から離れる時、涙を流しながらも手を振って見送り、「ここで過ごしてもいいかな」と小さな心に決めた4月。あれから半年が過ぎ、今ではお友達とおもちゃの取り合いをするほどたくましく成長した子どもたち。その姿を通して、毎年のことながら、保育園という集団生活の中で友達との関わりを自然に学んでいく、それこそが何よりも大切な生きる力であることを感じています。

保育園が設立された当初と社会全体も様変わりし、子どもたちがますます生きずらくなった社会環境の中で、保育園の中は子どもたちの安全基地であり続けるために、「今の時を喜びをもって生きる」保育が大切であり、必要であると考えます。

どんな時代にあっても、子どもたちに備わっている種はすばらしい種であり、変わることはありません。私たち大人はその種を大切に育てていく役割が与えられています。保育者である以前に人として、社会の宝である子どもたちの大切な種を、これからも喜びをもって育んでいきたいと思います。

矢野　久美
（東陽町ＹＭＣＡ保育園　園長）

感謝報告　**インターナショナル・チャリティーラン**　＝１面参照

↑東京トヨペット㈱の提供で、本物の車に絵やメッセージを描くコーナーが登場

→優勝は富士通㈱の「走務会１」。約７・８㎞を22分45秒で快走しました。

「こどもラン」には小学生と幼児親子約650人が参加。大人と同じ1.3㎞を走りました。

↑アテネ・パラリンピックマラソン金メダリストの高橋勇市さんも、三菱商事㈱のランナーとして参加されました

↑会場設営やコース誘導、模擬店、受付などのため、学生や企業社員など300人のボランティア・スタッフが活躍！

↑コスチューム賞は初参加の「クッキータイム・ジャパン」。会場を華やかに盛り上げてくれました。

参加・協賛企業・団体

（順不同、敬称略）

【全国協賛】
三菱商事株式会社
富士通株式会社
ステート・ストリート・コーポレーション

【参加・協賛】
シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社
エクソンモービル・ジャパン合同会社
株式会社カーギルジャパン
富士ゼロックス端数倶楽部
ジョンソンコントロールズ株式会社
キャセイパシフィック航空日本支社
岡谷エレクトロニクス株式会社
ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社
東京・フロストバレーYMCAパートナーシップ
東京トヨペット株式会社
フットマーク株式会社
花王ハートポケット倶楽部
有限会社中村商店
R.R.Donnelley Japan株式会社
クッキータイム・ジャパン
ＪＰＲＦ（一般社団法人日本ラケットボール連盟）
株式会社アサヒ・エコキャリー
アメアスポーツジャパン株式会社
山崎製パン株式会社
FVイーストジャパン株式会社
キッコーマン株式会社
東京海上不動産投資顧問株式会社
ライオン株式会社
株式会社ダイエー
株式会社昭和電気産業
株式会社東急リゾートサービス
ホテルイースト21東京
ロイヤルパーク ホテル汐留東京
ホテル鹿島ノ森
コストコホールセールジャパン株式会社
有限会社レッド ウィング
株式会社恵愛
尾瀬戸倉温泉 ホテル玉城屋
国際青少年センター東山荘（日本ＹＭＣＡ同盟）
ワイズメンズクラブ国際協会　在京ワイズメンズクラブ
しののめＹＭＣＡこども園
東京ＹＭＣＡ江東コミュニティーセンター　江東ＹＭＣＡ幼稚園
東京ＹＭＣＡ東陽町コミュニティーセンター
東京ＹＭＣＡ西東京コミュニティーセンター
東京ＹＭＣＡ山手コミュニティーセンター
東京ＹＭＣＡ山手学舎
東京ＹＭＣＡ国際ホテル専門学校
東京ＹＭＣＡ南コミュニティーセンター

ユースボランティア・リーダーズフォーラム

「リーダーに求められること」を考える

東日本の各ＹＭＣＡから34人のリーダーが参加。卒業リーダーも共に「今、ユースボランティアリーダーに求められること」を考えました。

ボランティアリーダーの研修・交流のため、「第28回ユースボランティア・リーダーズフォーラム」が9月11～13日、山中湖センターで開催されました。衣笠輝夫実行委員長に報告いただきました。

第27・28回ユースボランティア・リーダーズフォーラム実行委員長　**衣笠輝夫**

「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ」（旧約聖書「コヘレトの言葉」12章1節）

49年前、東京ＹＭＣＡ中央ブランチ少年部に所属していた高校生の頃、私はこの山中湖で行われたメンバー研修会に参加し、初めて聖書の言葉と牧師を知りました。その後のＹＭＣＡでのボランティアリーダー経験と、全国リーダー研修会（日本ＹＭＣＡ少年事業リーダー研修会他）など数多くの研修は現在の私の生き方のターニングポイントになっており、山中湖は想い出の深いキャンプ場です。その山中湖での「ユースボランティア・リーダーズフォーラム」の実行委員長として、昨年に続き関わることができたことを感謝しております。

ＹＭＣＡキャンプに参加する子どもたちの満足度・充実感と成長は、一緒に活動し生活をするグループリーダーの、子どもたちへ向かう姿勢に大きく影響されます。リーダー経験1～2年の若いリーダーが集うこのフォーラムでの数回のグループタイムは、グループリーダーとして「今、ユースボランティアリーダーに求められること」を一人ひとりが考え、共に語り合う中で自分と向き合い、新たな自分を発見していくプロセスでした。

今年のフォーラムには、東日本の各ＹＭＣＡから参加したリーダー34人（男性17人、女性17人）、リーダーＯＢＯＧで、参加リーダーをリードする（リーダーたちのリーダー）カウンセラー6人、ＹＭＣＡスタッフ3人で行われました。そしてこのフォーラムを資金等全面的に支えるワイズメンズクラブからは部分参加含め34人も参加いただきました。

期間中、リーダーたちの生き生きとした会話や笑顔がとても印象に残っています。リーダー一人ひとりが各ＹＭＣＡに帰って、フォーラムで得られた経験と知恵を活かし、活躍されることを願っております。

参加リーダーの感想文より

●菅野攻太（南センターリーダー）

・・・今までのどのキャンプよりたくさんのことを考え、またそれを共有・意見を言い合うことができ、今までにない充実感を感じることができました。「今、ユースリーダーに求められているもの」は何なのか、何時間も何時間も考え、伝えあい、最後に形になり発表できたときには、泣きそうになるくらいの達成感がありました。他のセンターの人とこんなに話すことができるなんて本当に素敵な経験になりました。

●永井梨緒（ぐんまＹＭＣＡリーダー）

・・学びも刺激もたくさんな3日間を過ごすことができたと感じています。メンバーや保護者の立場に立ったとき「今、ユースリーダーに求められること」について、グループみんなで夜遅くまでたくさん話して、悩んで、迷ってを繰り返したことは、究極の答えは見つけられなかったけれど何にもかえられない大事な時間で、そして今後リーダーとしての私の在り方に深く深く関わっていくのだろうと思います。

国際協力募金

新宿駅前で呼びかけ

→インターナショナルスクールと、キッズガーデンの子どもたち

母国の言葉で呼びかけをするネパールの留学生と社会体育・保育専門学校生たち

9月5日（土）、『バングラデシュの子どもたちの教育支援』と『ネパール地震の復興支援』のため、恒例の国際協力街頭募金を実施。会員、ボランティアリーダー、学生、留学生、メンバー、ワイズメンなど158人が、全力で気持ちをこめて呼びかけを行ない、総額17万1，411円が寄せられました。

今年は初めて新宿駅周辺で実施しました。東口では、日本バングラデシュ協会理事長ラーナー氏ご一家も参加し、インターナショナルスクールの生徒や山手センターの学生たちと並んで声を上げてくださいました。

東京ＹＭＣＡ国際ホテル専門学校、社会体育・保育専門学校、医療福祉専門学校および、にほんご学院の留学生は西口から南口を中心に活動しました。留学生は、出身国の言葉（ネパール語、中国語、ベトナム語など）で募金の呼びかけをし、また隣にいた専門学校生も共に外国語での呼びかけに挑戦するなど、学生同士の交流が図られる場面もありました。

長年親しんだ渋谷駅を離れ、新宿駅で行った初めての募金でしたが、ご参加の皆様には臨機応変にご対応いただき、無事に終えることができましたことを感謝申し上げます。募金総額は去年度（約21万円）よりも少ないものとなりましたが、多くの方々にご参加いただき、新しいチャレンジができたことは大きな成果であったと思います。

この募金は、バングラデシュＹＭＣＡが行なう無償の小学校や診療所の運営、ネパールＹＭＣＡによる災害復興支援活動のために大切に用いさせていただきます。

（国際協力部　保坂弘志）

東京ーＮＹ　フロストバレー便り

今夏設置したソーラーパネル。40人分のシャワーをガスを使わずに提供できる。

フロストバレーＹＭＣＡでは9月4日～7日、5年に一度の大規模なAlumni Reunion Weekend（同窓会）が開催された。300人以上の仲間が集まり、再会を喜び合い、懐かしいフロストバレーでハイキングやボートなど様々なアクティビティーを楽しんだ。

その中のプログラムのひとつにＣＥＯ・ジェリー・ハンコスキー氏による「Frost Valley YMCA-The Last Five Years（フロストバレーＹＭＣＡの５年間）」というプレゼンテーションがあった。前回のAlumni Reunion Weekendから何が変わったのか、そしてどのようなことを予定しているのか、将来の計画が語られた。報告の中には今年の夏、リーダーシップロッジの横にソーラーパネルが設置されたことによって、40人分のシャワーをプロパンガスを使わずにできるようになったなどハード面の改善点もあれば、ミッションステートメントが新しく書き換えられたというソフト面もあった。

将来の計画の中には現在キャンプ場の中にある道路を子どもや参加者が通行しない場所に移動すること、エントランスを１カ所にすることなど、いくつもの項目があり、実現に向けて寄付を集めたり現場で働いているスタッフの意見を聞いて優先順位を決めている。

フロストバレーＹＭＣＡは、常に安全で、最高のキャンプ場であることを追求し続けている。そして障がい、年齢、性別などを問わず、誰に対しても平等である。時代に合った視点で変化し続けるフロストバレーは活発で、いつ来ても新しい発見が用意されている。

（在フロストバレーＹＭＣＡ　池田麻梨子）

すべての人を一つにしてください

若者の雄姿に見た〝希望〟

「国会周辺は騒がしい」論です。戦争反対・平和と言うが、結局は食糧と娯楽が提供されていれば大衆は満足するという愚民政策です。

「コントロールされている」と言うトップの発言で、暗黙のうちに災害復興をいったん経済発展の方向に切り替えることを私たちは容認しました。そのことが選挙結果にも表れました。私たちはパン（経済発展）を採ったのです。その延長上に今回のこと（強硬採択）があり、民意を代弁したのが為政者であったのかもしれません。「我々を先の選挙で選んでおいて今さら何を反対しているのか」という声が聞こえるようです。まさに銀座や後楽園でにぎわう私たちの本音を読まれているのです。

今回、私たちは多くのものを失いましたが、得たものもあります。政治に関心を強く持つ市民、「いまの若いもん」も捨てたものではないという発見、憲法を大切にするとはどういうことかという認識。メディアのふがいなさも判明しましたが、民主主義の大切さを反面教師的に知り、いかに選挙が大切であるかをあらためて認識しました。日本が変わっていくかも知れないという不安の中にも、私たちは日本を変える力をもっているという希望、特に若者の雄姿に「未来への希望」を感じたいと思います。

（総主事　廣田光司）

「国会周辺は騒がしいが、銀座や後楽園球場はいつも通りである。私には声なき声が聞こえる」（岸信介）

数に勝る政権与党の思惑どおりに「平和安全法制整備法案」が国会で可決されました。標記は１９６０年の日米安保条約発効時（いわゆる安保闘争）の日本の最高責任者（現安倍首相の祖父）の言葉です。「デモの声とは違う意見も多くある」という意味ですが、同時に銀座と後楽園をあげています。いわゆるローマのユウェナリス「パンとサーカス」論です。戦争反対・平和と言うが、結局は食糧と娯楽が提供されていれば大衆は満足するという愚民政策です。

「コントロールされている」と言うトップの発言で、暗黙のうちに災害復興をいったん経済発展の方向に切り替えることを私たちは容認しました。そのことが選挙結果にも表れました。私たちはパン（経済発展）を採ったのです。その延長上に今回のこと（強硬採択）があり、民意を代弁したのが為政者であったのかもしれません。「我々を先の選挙で選んでおいて今さら何を反対しているのか」という声が聞こえるようです。まさに銀座や後楽園でにぎわう私たちの本音を読まれているのです。

今回、私たちは多くのものを失いましたが、得たものもあります。政治に関心を強く持つ市民、「いまの若いもん」も捨てたものではないという発見、憲法を大切にするとはどういうことかという認識。メディアのふがいなさも判明しましたが、民主主義の大切さを反面教師的に知り、いかに選挙が大切であるかをあらためて認識しました。日本が変わっていくかも知れないという不安の中にも、私たちは日本を変える力をもっているという希望、特に若者の雄姿に「未来への希望」を感じたいと思います。

（総主事　廣田光司）